



学校だより

第9号 ジャカルタ日本人学校
令和7年(2025年)12月19日
発行:校長 谷口幸一郎
TEL: 021-745-4130

2学期終了

長かった2学期も今日で終わりです。振り返ってみると、校外学習をはじめ集団宿泊、修学旅行そしてJJSフェスティバルに合唱コンクールなど様々な行事がありました。それぞれの行事が子供にとって、思い出深いものになったのではないでしょうか。

さて、明日からの冬休み、どのようにお過ごしになられるでしょうか。日本に帰る家庭や旅行に出かける家庭もあると思います。もちろん、インドネシアで過ごす方が多いと思います。新年を迎えるせっかくの機会です。是非、日本の正月についてお話をあげてください。

例えば、「おせち料理」には、海の幸、山の幸がたくさん使われています。「紅白かまぼこ」・・・かまぼこは日の出を表すもので、赤と白にはめでたさや慶びや神聖さを表しているそうです。「黒豆」は、豆自体が健康・丈夫を表しているようですが、「まめに働くように」という語呂合せからもきているようです。さらに門松は年神を家に迎え入れるために作ったもので、中に松、竹、梅、ナンテン、センリョウなどを使って飾りつけを行います。私も親から小さいころに教わったものです。それぞれの地方によって、習慣は様々ですが、11日までは幕の内ですので、お子さんと一緒に「正月」についていろいろ調べてみてみるのもいいかもしれません。



一方で、中学3年生にとっては、まさに正念場です。今度の入試は、高校無償化が本格的に始まる年に行われる初めてのものになります。これまで経済的な理由から公立に絞る家庭も多かったと思いますが、今回は公立、私立問わず、行きたい高校を受験する生徒が多いはずです。とにかく、行きたい高校へ行けるよう、学力をつけることと面接の練習も十分に行っておいてください。

ヤマハ楽器さんからバイオリンをいただきました。

インドネシアヤマハさんから、現地工場の一部を閉鎖するに伴い、そこで作っていたバイオリン6器を学校に寄贈していただきました。バイオリンは演奏するにはなかなか難しく、授業で扱うことはできませんが、いつかその音色を子供たちに聞かせてあげたいと思います。

バイオリンはそもそもイタリアの北部で発明された楽器で、大きさも様々なものがあるそうです。4/4の大人用のフルサイズから、3/4、1/2、1/4、1/8、1/10、1/16など小さな子供用のサイズまであります。これらのサイズは、子供の成長に合わせて使われます。通常は使う人の身長や腕の長さに基づいて決定されます。私の家族にも昔バイオリンを弾いていた者もいますが、繊細な楽器で難しく、練習がかなり必要だと言っていました。(私も試しましたが、とにかく雑音しか出せませんでした。)

今回は、フルサイズ、3/4、1/2サイズそれぞれ2つずつ6器をいただきました。大事に活用させていただきたいと思います。ありがとうございました。



AIを活用した体育（持久走）



先日、中3体育でAIを活用した「新しい持久走」の授業がありました。単に周回を競うのではなく、自分の目標心拍数を「予測」し、走った「結果」とのズレをAIと共に分析するという、身体を科学する内容です。生徒はAIを「専属コーチ」として活用し、データに基づいた個別のアドバイスをもらうことで、「次は姿勢吊り上げ作戦

だ！」などと主体的に試行錯誤していました。「苦しい」持久走が、「自分の体を攻略（ハック）するゲーム」へと変わり、目を輝かせて次の作戦を練る生徒の姿が印象的でした。本校でもAIの在り方の研究を進めていきたいと思います。

おもちゃランドへ ようこそ

先日、小学2年生から招待状をもらいました。表題におもちゃと書いてあつたので、わくわくしながら体育館へ行ってみると、たくさんのブースが用意され、**子供たちの考えたおもちゃがたくさん準備してありました。**「おむすびころりん」「坂道ボーリング」「風で動くおもちゃ」など、私も7つのおもちゃにチャレンジしました。もちろん、その他にもたくさんのおもちゃが用意されていて、子供たちの工夫が作品に表っていました。**子供たちは遊びの天才**だと改めて感じました。



神輿体験

小学4年生が神輿体験をしました。学級ごとに交代で神輿を担いで体育館を一周しました。

今回、子供たちが担いだ神輿は日本人会の**雨笠 俊夫 様が準備**してくれました。当日、雨笠さんから子供たちに「**神輿は感謝の気持ちを神に伝えるもの**」であることや「**神輿には神が宿っている**」などの説明がありました。その後、実際に神輿を担いだ後に、子供たちから「**神輿の上についている物は何？」「神輿の下にある櫓は組み方にルールがあるの？」「かけ声は『わっしょい』となぜ言うの？**」などの質問が出ていました。



私も小さい頃、神輿を担いで市内を歩き回った経験がありますが、大きな声をみんなと一緒に出しながら、気持ちを一つにするという日本伝統のお祭り、子供たちにも是非、経験してほしいものです。

雨笠さんによると、**インドネシアにも神輿がある**のだそうです。果物や穀物の豊作に感謝するという、日本と同じ習慣のようです。

この機会に、皆さんの出身地域のお祭りについてもお子さんにお話ををしてあげてください。ちなみに私の故郷では「そいや、そいや」といいながら、神輿を担ぎ、市内の中心部を歩きます。

ジャカルタの人口

先日新聞を見ていたら、「ジャカルタが『世界最大都市』に」という記事を見つけました。国連が都市の定義を見直し、広域の都市圏を標準化して集計したことでの**ジャカルタが世界一**になったそうです。ちなみにこれまで1位だった東京は3位だそうです。

世界最大都市のジャカルタではありますが、やはりゴミ問題や交通渋滞、大気汚染に悩まされています。この状況は私が小学生の頃、東京も同じ状況でした。**大気汚染もひどく、川はヘドロだらけ**でしたが、国民が環境を意識し始め、環境改善に取り組んだ結果、現代のような環境になっています。以前、ある子供がインドネシアの環境や人々の行動を馬鹿にしている話を同級生にしている場面をみたことがあります。日本も同じだったのに、とても悲しくなりました。ジャカルタはこれからどんどん経済成長していくと思います。そして、子供たちが還暦を迎える頃には、とても住みやすい町になっているのではないかでしょうか。**「住めば都」**ほとんどの日本人学校の子供たちはインドネシアのことが大好きです。人の優しさ、自然の豊かさ、多種多様な食べ物など、日本より優れていることがたくさんあることを子供たちは気付いています。**住まわせてもらっている町に感謝する気持ちを持ち続けてほしい**と思います。